

理事長就任あいさつ



鳥取県議会議員 前 田 宏

本年5月に本委員会の理事長に就任いたしました鳥取県議会議員の前田宏でございます。

近年、真に豊かさやゆとりを実感できる生活の実現が求められているなかで、森林に対する要請は多様なものとなっており、また、地球的規模での環境保全についても、

世界的に関心が高まり、森林の重要性に対する認識が一層高まっています。

しかしながら、今年4月に発表された「森林・林業白書」をみると、伐採によって森林の減少が世界的に進み、地球環境に大きな影響を及ぼしていると指摘されています。

特に地球温暖化問題については、人類の生存基盤に関わる最も重要な環境問題の一つであることから、政府は、昨年12月に「地球温暖化防止森林吸収源十ヵ年対策」を策定し、今年から平成24年までの10年間に於いて、国、地方公共団体、事業者及び国民が一体となって、各地域における森林整備の必要性等についての理解を共有し、取り組みに参画することを位置づけています。

県においても、現在「水源かん養税」(仮称)の新設を検討する等、私たち県民の健康で文化的な生活を確保する上で欠くことのできない役割を果たしている森林を守るための諸施策を、県民の皆さんの意見を聞きながら実施しているところであります。

また、本委員会では、県民参加での緑づくりを進めるため、緑の募金活動や募金による学校・公園・公共施設の緑化、森林の整備をはじめ、みどりの少年団の育成や、「森っ子倶楽部」などボランティア団体の活動支援等幅広い活動を行っております。

今後とも、鳥取県を緑豊かな美しい郷土とするため、積極的に取り組んで参りますので、皆様方のますますの御支援・御協力をお願い申し上げ、就任のあいさつといたします。

平成15年度春期「緑の募金」実績

平成15年度緑の募金計画

- 募金運動期間 春期 3月24日(月)～5月31日(土)
秋期 9月1日(月)～10月31日(金)
- 募金目標額 2,800万円

平成15年度春期の「緑の募金」は、県民の皆様の御理解や関係者の御尽力により、不況の中にもかかわらず対前年比98%の約2,500万円の浄財が寄せられました。ありがとうございました。

この浄財の内、街頭募金、学校募金、家庭募金は、募金額の70%の範囲内で各市町村支部ごとに交付し、学校や地域の緑化に役立てられます。その他の募金は、本部で取りまとめて、団体等が行う森林づくりやボランティア活動などの助成金として交付することになっています。

「緑の募金」は、身近な緑化の推進や地球環境を守るための貴重な浄財として有効に活用してまいりますので、募金目標達成のため、秋期募金への一層の御理解と御協力をお願いいたします。

春期緑の募金実績

単位：千円

区 分		平成15年度						平成14年度
		街頭募金	学校募金	家庭募金	その他	合計	割合	
平成15年度	鳥取支部	76	446	2,470	1,004	3,996	16.1	4,002
	八頭支部	26	260	2,626	327	3,239	13.0	3,350
	倉吉支部	317	335	4,652	480	5,784	23.2	6,922
	米子支部	241	675	5,449	718	7,083	28.5	7,169
	日野支部	0	72	1,277	37	1,386	5.6	1,626
	本部	0	0	0	3,399	3,399	13.7	2,325
	計	660	1,788	16,474	5,965	24,887	100.0	25,394
	割合	2.7	7.2	66.2	24.0	100.0		
平成14年度		732	2,066	17,159	5,437	25,394		

高額募金者のお名前（敬称略）

40万円以上 (株)エヌ・ティ・ティ・ドコモ中国、
鳥取三洋電機(株)

10万円以上 (株)新日本海新聞社
野口 正男、盛田 幸男、武田 勇、
遠藤 潔、坂本 敏、田淵 豊



みどりの少年団等交流集会

友達の輪が広がった交流集会

米子市立日新小学校校長 武永 健一

全県から集合したみどりの少年団の交流集会で、多くの思い出ができました。日新小学校からも4名の団員が参加しましたが、いつの間にかそれぞれの班で他のメンバーと会話をはずませていました。



双眼鏡学習



木工クラフト

初日の木工クラフトでは、班どうしても協力して作品制作に取り組む姿を見てほほえましく感じました。また、野外炊飯の『スペイン風 青年の家バエリア』づくりでは、初めて生のイカに触れたり、包丁で切ったりの体験をした団員も多かったようです。できれば、ご飯がやや固かったりしたグループもありましたが、にぎやかな声の中おいしくいただきました。

結局、天候の都合で二日間とも青年の家で過ごしましたが、学習や活動を通じていろいろな人と友だちになれるということと、友だちがふえることはとにかく楽しいということをしっかり学べたと思います。

木工クラフトで キーホルダーを作ったよ！

鳥取市立賀露小学校みどりの少年団 幸本 はるか(4年)

わたしは、みどりの少年団で、大山青年の家に行きました。わたしの一番心にのこっていることは、さくらの木でキーホルダーを作ったことです。はじめは、どうすればいいんだろうとか、じょう



野外炊飯



ずにできるかなあとか、いろいろ心配していたけどやってみて、だんだんなれてきたら心配もなくなりました。わたしは、うさぎを作りました。みんなに見せたらかわいいといわれました。うれしかったです。ほかの人たちも、かわいいのを作っていました。わたしもほかの人たちの作品を見てすごくかわいいとか、じょうずだなぁと思いました。

大山青年の家に行ってよかったと思います。

平成15年度

みどりの少年団・愛鳥モデル校交流集会

(第57回愛鳥週間「全国野鳥保護のつどい」関連行事)

と き 平成15年5月10～11日

ところ 大山青年の家

参加者 県下10校みどりの少年団107名ほか 総数130名

内 容 1日目：木工クラフト、野外炊飯、キャンドルサービス

2日目：野鳥のスライド、ペーパークラフト、ドッジボール

みどりの少年団全国大会（成実小学校みどりの少年団）

米子市立成実小学校 達磨 晋



全国から500名が、世界一のカルデラの町「阿蘇」に集いました。7月30日の記念式典に続き、8月1日まで交流会がありました。

地元の小中学生のすばらしい太鼓の演奏や神楽の舞が披露され、大変感動的な出会いの始まりでした。

2日目は、阿蘇12町村にグループ毎に分かれて出かけました。私の班は阿蘇の南西にある西原村に出かけパラグライダーに挑戦しました。汗だくの助走練習の後、雄大に広がる山の斜面から500m程度の飛行を体験しました。子どもたちも大人も全員初体験でしたが、ほぼ全員が飛行に成功して大満足でした。

宿舎となった阿蘇青年の家周辺には、青いピンポン玉のような花をつけた「ヒゴタイ」が咲き、外輪山の向こうには九重連峰が見えるすばらしい自然環境の中で、三日間がすぐに過ぎていきました。

多くの友と雄大な自然につつまれた交流会は、いつまでも心に残るものとなりました。

事業紹介

椎茸ほだ木オーナー森林の恵みを満喫！

緑と水の森林基金事業（農山村と都市の交流活動促進）

椎茸ほだ木オーナー制度用瀬町実行委員会

しいたけ「ほだ木」オーナー制度用瀬町実行委員会主催による椎茸オーナー制度で、8月2日、椎茸オーナー家族32人が集まり、椎茸ほだ木の管理作業と木工品作りを体験しました。

オーナーらは椎茸ほだ場のスギ林内に移動し、昨年11月9日に植菌した椎茸ほだ木の菌の蔓延状況を確認した後、たくさん収穫できるようにほだ木の上・下、表・裏を変える“天地返し”作業に汗を流しました。菌の蔓延状況は良好で、今年秋から来年春の収穫を楽しみにしながら作業を行いました。

その後、木材を使って巣箱・本立て・イス作りに挑戦しました。ある初老のオーナー夫婦は「久しぶりに木工をしたわ。孫の分も作ってやります。」と孫の喜ぶ顔を思い浮かべながら語り、ノコギリ、カナヅチを手に巣箱作りに励んでいました。

オーナーらは、森林内での椎茸栽培体験と木材を加工して使うことを通して森林の恵みを満喫したことでしょう。



木工教室の様子



ほだ場管理作業の様子

事業紹介

飛砂防止・防風林の復活をめざした取り組み

緑の募金事業（地区緑化イベント）

北条町松神部落公民館



植栽後の状況

5月7日、北条町松神において砂丘畑の緑地帯を復活させようと、北条町松神地区の住民がイスノキの植栽を行いました。

これは、長年砂丘畑の農作物を飛砂から守ってきたクロマツ林が、近年の松枯れの進行により減少する中、マツに代わる飛砂防止、防風林の役目を果たすものを植栽するものです。また同時に地域の砂丘地に対する緑化の意識を高めようと地域住民主導で検討を重ねて行った試みです。

当日は、松神地区の大人から子ども、地元会社の有志の総勢約130名が植樹に参加して、1,000本の苗木を自分たちの手で一本一本ていねいに植樹しました。

このイベントを実施した結果、松神地区住民の砂丘緑化の意識が高まるとともに、地域の連帯感もさらに深まった1日となりました。



植樹の様子

みどりの少年団が林業体験学習

緑と水の森林基金事業（青少年・民間活動グループ育成）

丸山生産森林組合 組合長 小西 護郎

「美しい森づくりを教育に生かそう」という丸山生産森林組合の目的で、4月14日、岸本町内の緑の少年団69名と教育委員をはじめ周辺企業あわせて105名で、新緑が萌え、桜が満開の「丸山ふれあいの森」の一角で林業体験学習を行いました。

当日は、クヌギ・松食い虫に強いマツの植林体験をはじめ、椎茸菌の原木打ち込み体験、鳥取大学助教授による森林教室、地元産の米を使った飯盒炊飯による食農教育等実施しました。

特に印象に残ったのは、空腹にも負けず、一生懸命木々の生態を学ぶ児童や車イスの児童につきっきりで説明される鳥取大学の助教授の姿です。また、地元産の米を使ったカレーライスを3杯も食べる子供達の生き生きとした姿に感動を覚えました。

この春植林されたクヌギや松食い虫に強いマツは、下刈り・つるきりといった中学生の職場体験事業もあり、すくすくと育っています。21世紀は、森林の役割が大きく台頭してきます。郷土の美しい森林を誇りとして、青少年が将来の各方面に活躍していく活動として続けていきたいと思います。



クヌギ、マツの植林



椎茸ほだ木づくり

事務局便り

平成15年度「森の名手・名人100人」決まる

「もりのくに・にっぽん運動」の一環として、社団法人国土緑化推進機構が平成14年度から実施している、「森の名手・名人100人」の平成15年度の選定が行われ、鳥取県からは、次の二人が選ばれました。

これで、鳥取県の「森の名手・名人」は、平成14年度に認定された坂根晴己さん（八東町：樵） 林和里さん（船岡町：炭焼き） 梶川みづほさん（智頭町：草木染め）の3名と合わせて5名になりました。

山根 肅
伊井野 恒治

八頭郡若桜町若桜 加工部門（木地師）
八頭郡若桜町屋堂羅 森の伝承・文化部門（竹製玩具製作）



山根 肅さん



伊井野 恒治さん

富沢小学校みどりの少年団が全国発表大会に参加

富沢小学校みどりの少年団（智頭町）が、全国7団の中に選ばれ、第27回全国育樹祭の併催行事として開催される平成15年度全国緑の少年団活動発表大会に参加することになりました。

- 1 と き 平成15年10月25日（土） 12：00～
- 2 ところ 名古屋市昭和区「愛知県勤労会館」

平成14年度緑と木の写真コンクール

当委員会が後援した鳥取県林業技術協会（会長：智頭町森林組合長 澤米 由己氏）主催の平成14年度緑と木の写真コンクールの入賞者が決定されました。当委員会は、入選4点に理事長賞を交付しました。

入 賞 者 の 皆 さ ん

最優秀	三輪 泰蔵（智頭町）	入 選	木村 定雄（米子市）
特 選	門脇 正八（西伯町）	佳 作	佐竹 なお（鳥取市）
特 選	川口 正義（赤碕町）	佳 作	岩崎 義幸（鳥取市）
入 選	瀬原 磯治（中山町）	佳 作	久野 幸雄（気高町）
入 選	松本 猛（鳥取市）	佳 作	谷口 麗子（鳥取市）
入 選	小谷 元伸（江府町）	佳 作	梶川 宗治（智頭町）